

令和 3 年 5 月 11 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K07989

研究課題名(和文) 農業のアメニティの向上を通じた都市の創造性に関する研究-日本と中国の比較分析-

研究課題名(英文) Study on Urban Creativity through Improved Agricultural Amenities: Comparative analysis of Japan and China

研究代表者

木南 莉莉 (Kiminami, Lily)

新潟大学・自然科学系・教授

研究者番号：40272132

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本と中国の都市を対象に、農業の多面的機能を通じた都市アメニティの提供が都市の持続性と創造性を促進するメカニズムを解明した。具体的には、都市の持続可能な発展のために創造性の高い人々(創造的な職業と創造的な思考の両方)を住まわせることが必要であり、これらの人々を惹きつける要因の1つとして、農業の多面的機能を通じた都市アメニティの提供が重要である。また、ソーシャル・ビジネスとしての都市農業は、社会的起業家精神と事業の発展を通じて、社会的制度の変化を引き起こし、都市の持続性の向上に寄与することが可能である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究において、既存の農業経済学だけでなく、都市経済学、認知科学、起業行動・組織論や制度論のアプローチを融合した学際的研究によって得られた成果であり、社会的イノベーションの研究を進展させているという点で学術的意義を有する。また、都市の持続的発展に資する革新的な農業モデルの実態と課題の解明を通じて、今日の都市が抱える食料安全保障問題や環境問題および格差・孤立などの問題の解決や、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)の実現に向けての幅広い政策提言に貢献するため、本研究の社会的意義は大きい。

研究成果の概要(英文)：This research clarified the mechanism by which the provision of urban amenities through the multi-functionality of agriculture promotes the sustainability and creativity of cities in Japan and China. Specifically, it is clarified that the sustainable development of cities requires the inhabitation of highly creative people (both creative professions and creative thinking), and one of the factors that attracts these people is to provide urban amenities through the multi-functionality of agriculture. In addition, it is clarified that urban agriculture as a social business causes changes in social institutions and contributes to the improvement of urban sustainability through social entrepreneurship and business development.

研究分野：農業経済学、地域研究

キーワード：都市農業 多面的機能 創造性 持続性 社会的起業家精神 社会関係資本

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

一般的には、都市の発展に伴い地価が上昇すると、多くの農地が非農業の用途へと転用・開発され、農業は都市において不要なものであるとみなされることが多い。一方で、農業は、食料だけではなく、環境保全、景観形成、農業体験の場などを提供し、経済性、環境保全、社会性のトリプルボトムラインの側面から構成される農業の多面的機能(Multifunctionality of Agric.)を有している(OECD 2001: Multifunctionality: Towards an Analytical Framework など)。そして、都市政策や都市計画を通じて土地税制やゾーニングのあり方によって、これらの機能の関係性も変化し得る。

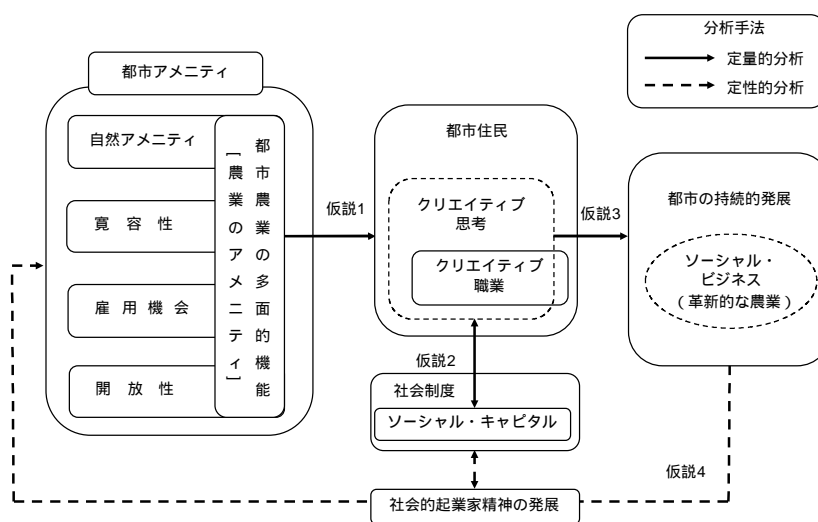
このような背景の下で、日本では2015年に、都市農業の多面的機能の発揮、良好な市街地形成と農業の共存、および国民の理解の促進を基本理念とした、「都市農業振興基本法」が制定されている。中国では急速な経済成長の中都市開発の圧力は極めて強いが、三農問題の解決、新農村建設が政策の重要課題として掲げられ、一部の都市近郊地域では観光農園、農家レストラン、教育ファームなど都市住民の農業アメニティに対するニーズを対応した新しいタイプの農業経営体が出現している。

また、近年の国内外の研究では居住者の創造性(クリエイティビティ)が都市成長の重要な要因の一つであると報告されている(Florida R. 2002: The Rise of the Creative Class: and How It's Transforming Work, Leisure, Community and Everyday Life)。クリエイティブクラスと地域経済との関係については、地域条件によって異なるものの、所得水準、雇用成長、企業家精神に影響を与えていることが明らかにされている(例えば、Hoyman and Faricy 2009; Gabe et al.(2007))。また、自然環境などのアメニティ、地域の寛容さ(tolerance)や開放性(openness)がクリエイティブクラスの生成を促すことが報告されている(例えば、Boschma and Fritsch 2009; McGranahan and Wojan 2007; McGranahan et al.2011)。

一方、農業のアメニティについては、Zasada(2011)、Randall(2002)、Hiromasa and Fukazawa(1992)をはじめとした多面的機能の評価に関する研究があるが、クリエイティブクラスと関連付けた研究はほとんど存在しない。しかし、研究代表者の日本(東京都市圏)を対象とした予備的な分析の結果では、都市農業のアメニティが都市のクリエイティブクラスを惹きつけていることが統計的に明らかにされている(Kiminami A. and Kiminami L. 2016: Urban Agriculture and Sustainable Development of Cities,14th PRSCO Summer Institute)。つまり、農業の振興がアメニティ(Amenity: 多面的機能を楽しむ側面から見た農業の魅力要因)を高め、創造性と生産性の高いクリエイティブクラスを惹きつけ、地域における社会的課題解決と持続的な成長をもたらす可能性がある。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、都市の持続的発展研究と農業の多面的機能研究を融合し、日本と中国の都市を対象に、都市農業の多面的機能に基づくアメニティの発揮が都市の持続性と創造性を促進するメカニズムを解明し、同地域における持続的発展に求められる革新的な農業に基づく社会的イノベーション(社会的課題の解決によるより善い社会の実現を目指し、新たな価値観の下で、人々の相互関係や社会の仕組みを変えていくプロセス;野中ら 2014)の課題を明らかにすることである(図1を参照)。



出所: Kiminami et al. (2019)のFig.3を改訂。

図1. 農業のアメニティと都市の創造性に関する分析枠組みと仮説

### 3. 研究の方法

本研究では、以下の3つのサブ課題を設定し、理論と実証の両方の側面から課題にアプローチした。課題1と課題2は仮説生成型の研究、課題3は仮説検証及び理論再構築の研究として位置付けられる。また、分析手法には、仮説生成には先行研究のサーベイ、既存の資料・統計の分析、アンケート調査やインタビュー調査の予備的分析を用いる。仮説検証では、定量的分析とし

て共分散構造分析 (Structural Equation Modelling: SEM) 及び空間計量経済分析、定性的分析として複線経路・等至性モデル (Trajectory Equifinality Model: TEM) 分析の2つを用いる (表1を参照)

表1. 研究方法と分析手法

サブ課題	位置付け	分析手法
課題 . アメニティの高い農業の実態解明 (革新的・先端的な都市農業と起業家)	仮説4の生成	・先行研究のサーベイ ・既存の資料・統計の分析
課題 . クリエイティブクラスの生成とアメニティ享受のメカニズムの解明	仮説1-3の生成	・アンケート調査の予備的分析 ・インタビュー調査の予備的分析
課題 . 農業のアメニティ発揮を通じた都市の持続的発展に関する理論フレームワークの構築	仮説検証と理論の再構築	・定量的分析 (共分散構造分析、空間計量経済分析) ・定性的分析 (都市農業起業家のTEM分析)

#### 4. 研究成果

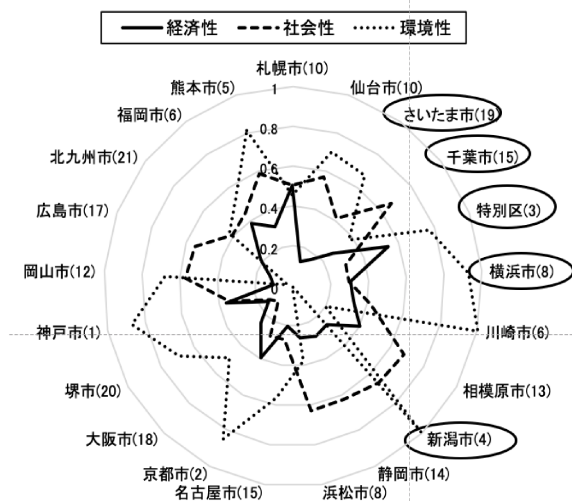
各課題に関する主な研究成果及びその総括結果は以下のように整理できる。

##### (1) 課題1「アメニティの高い農業の実態解明」

まず、日本については、関連省庁および関連協会等の事例集を利用して分析を行い、日本における先端的農業の事業・起業のプロセスとビジネス・モデルを解明するためのデータベースの作成と類型化および調査対象事例の選定を行なった。また、公刊統計および資料を用いて、政令指定都市と東京都特別区を対象に、経済性、社会性及び環境性の3つの評価指標を作成・統合し、都市農業の多面的機能及び持続性のパフォーマンスを評価・分析した (図2を参照)。

なお、関連する領域として、日本における産業全体での状況を把握するため、都道府県データを用いて起業家精神と起業環境が開業率に与える影響を明らかにした。また、日本の新規開業企業を対象に、ソーシャル・ビジネスの革新性に及ぼす要因の特質を明らかにした。

次に、中国では先端的農業 (大規模有機・観光農業、屋上農園、コミュニティ・ガーデン) の事業・起業のプロセスを解明するために上海市での現地調査 (インタビュー調査と現地視察) を行ない、日本では東京都内の都市農業に関する実態調査を行った。以上の分析結果をふまえて、実証仮説4を設定した。



注: 各要素は、正規化後(最小0、最大1)の平均値である。  
( )内は総合順位を示す。  
出所: Kiminami et al. (2020)より一部抜粋の上作成。

図2. 都市農業のパフォーマンス評価 (東京都特別区、政令指定都市)

仮説4: 都市農業における社会的起業家精神(Social Entrepreneurship: SE)は、社会制度(Social Institutions)の影響を受けながら、ソーシャル・ビジネス(Social Business: SB)の実績を通じて、高めることができる。

##### (2) 課題 「クリエイティブクラスの生成とアメニティ享受メカニズムの解明」

東京都と上海市の住民に対して大規模なアンケート調査を通じて都市農業のアメニティがクリエイティブクラスの認知構造とライフスタイルの選択との関係を解明した。また、クリエイティブ思考と職業の関係を整理し、アンケート調査によってその共通性と相違性を明らかにした。

なお、関連する領域として、日本の主要都市 (東京都特別区、政令指定都市、県庁所在都市) を対象に、都市アメニティがクリエイティブ職業の生成に与える影響、また、文化的多様性とクリエイティブ職業のジェンダー格差が都市の持続的発展に与える影響を統計分析によって明らかにした。これらの分析結果を踏まえて、下記の実証仮説1~3を設定した。

仮説1: クリエイティブ思考を有する人々は、農業の多面的機能を強く選好する。

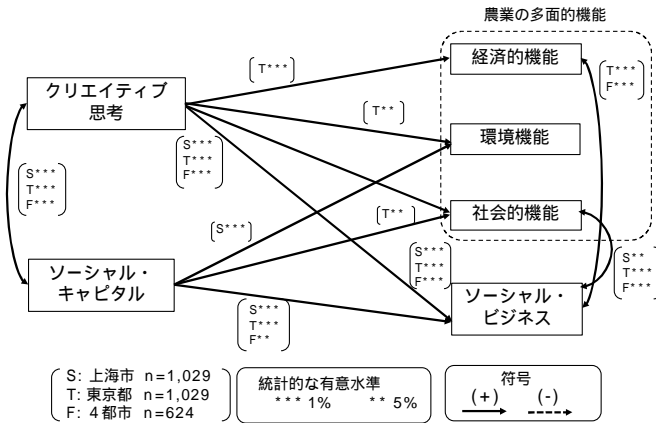
仮説2: クリエイティブ思考を有する人々は高い水準のソーシャル・キャピタルを有する。

仮説3: クリエイティブ思考を有する人々は、ソーシャル・ビジネスへの関与意向が強い。

(3) 課題 「農業のアメニティ発揮を通じた都市の持続的発展に関する理論フレームワークの構築」(仮説の検証と理論の再構築)

共分散構造分析と空間計量経済分析を用いて、仮説1~3を検証した。まず、東京都と上海市の住民に対する大規模なアンケート調査の結果に基づいて、共分散構造分析を適用し、3つの仮説を検証した(図3を参照)。いずれの都市においても、仮説1「クリエイティブ思考を有する人々は、農業の多面的機能を強く 선호する。」と仮説2「クリエイティブ思考を有する人々は高い水準のソーシャル・キャピタルを形成する。」が検証された。さらに、「クリエイティブ思考を有する人々は、ソーシャル・ビジネスへの関与意向が強い。」が検証された(仮説3)。ただし、東京都においては、クリエイティブクラスは多様なライフスタイルを志向していることが明らかになったが、上海市の分析結果からはクリエイティブクラスが一様に「自己実現」のライフスタイルを好んでいることが明らかになった。

また、上海市については、空間計量経済分析を用いて、クリエイティブ職業の都市住民の集積に対して、都市農業のアメニティが及ぼす影響を分析し、クリエイティブ職業の集積には物理的な近接性という意味での空間的自己相関があること、アメニティの特性(経済性・環境性・社会性)によって集積に及ぼす影響が異なることが明らかになった。

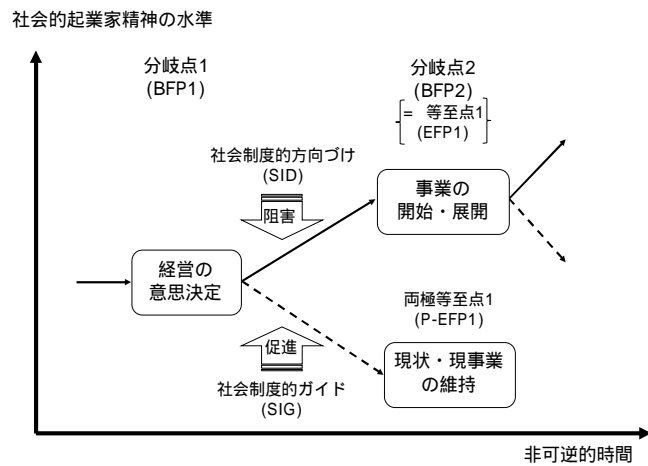


注：推計方法には、最尤法(共分散構造分析)を用いている。「性別」、「年齢」、「所得」、「農地の賦存度」のパスについては、スペースの都合により省略。  
出所：木南莉莉ほか(2020)、Kiminami et al. (2020)より一部抜粋の上作成

図3. 共分散構造分析の結果(上海市・東京都・4都市)

次に、上記の3つの仮説が大都市以外においても支持されるか検証するために、日本の政令指定都市(横浜市、千葉市、さいたま市、新潟市)を対象に実施したアンケート調査を行い、概ね同様な検証結果が得られた。すなわち、本研究の仮説は、都市規模(グローバル都市とそれ以外)やマクロ的な経済・社会環境特性の異なる地域(日本と中国)においても支持されることがわかった。

最後に、仮説4に関しては、革新的な都市農業のソーシャル・ビジネスとして4事例(地域住民協働型の市民農園、生産者・消費者交流型の畜産経営、ワイナリークラスター、資源循環型・事業多角化型の農業経営)を選定し、TEM分析を行なった(図4を参照)。経営の意思決定を分岐点(Bifurcation Point: BFP)として設定し、起業家精神の発展にネガティブな影響を及ぼす社会制度的方向付け(Social Institutional Guide: SID) ポジティブな影響を及ぼす社会的ガイド(SIG: Social Institutional Guide)を整理し、多様な発展経路を整理した。その結果、ソーシャル・ビジネスの発展は、社会的制度→社会的起業家精神→社会的事業の好循環によって実現され、特に社会関係資本は社会的事業の設立の初期とビジネス発展の過程の双方において重要な役割を果たしていることが明らかになった。



出所：Kiminami et al. (2020)より一部抜粋の上作成。

図4. TEM分析の概念モデル

(4) 研究成果の取りまとめと今後の研究展望

最終年度には、補足調査・分析及び分析結果の総括を行った。具体的には、中国上海市における都市農業(主にコミュニティ・ガーデンに対する住民の認知・評価、TEM分析)の分析、日本の都市農業における先進事例の定性分析(TEM分析に3事例を追加、レーダーチャート分析)を行った。

以上の研究を通じて、農業のアメニティ向上を通じた都市発展のメカニズムを明らかにし、日本と中国における都市の持続的発展に資する農業開発の課題を導出した(Springerより英語書籍を出版予定)。なお、本研究を発展させた研究プロジェクトとして、令和二年度より科研費(基盤C)を獲得し、社会的起業家精神が都市農業を通じて、地域の課題を解決し、共有価値の創造(Creating Shared Value: CSV)を引き起こすメカニズムを明らかにする研究を進めている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 12件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Lily Kiminami, Shinichi Furuzawa, Akira Kiminami	4. 巻 -
2. 論文標題 Transformation of Japan's Rice Policy Toward Innovation Creation for A Sustainable Development	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asia-Pacific Journal of Regional Science	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s41685-020-00175-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 木南莉莉, 古澤慎一, 木南章	4. 巻 50(2)
2. 論文標題 中国における近年の食料消費行動の変化 米小売市場を焦点に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域学研究	6. 最初と最後の頁 345-369
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2457/srs.50.345	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Sohel Rana, Lily Kiminami, Shinichi Furuzawa	4. 巻 4(3)
2. 論文標題 Analysis on the factors affecting farmers' performance in disaster risk management at community level: focusing on a Haor locality in Bangladesh	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asia-Pacific Journal of Regional Science	6. 最初と最後の頁 737-757
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s41685-020-00171-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 古澤慎一, 木南莉莉, 木南章	4. 巻 -
2. 論文標題 日本における社会的企業の革新性に関する分析：新規開業企業を対象として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域学研究 (掲載決定)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sohel Rana, Lily Kiminami, Shinichi Furuzawa	4. 巻 -
2. 論文標題 Social Innovation for Women's Empowerment in Disaster Risk Governance: Focusing on CIG in a Haor Region of Bangladesh	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Studies in regional Science (Accept)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細木千寛, 木南莉莉	4. 巻 73
2. 論文標題 日本農業における社会起業家育成の課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新潟大学農学部研究報告	6. 最初と最後の頁 29-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kiminami, Lily, Furuzawa, Shinichi, Kiminami, Akira	4. 巻 4
2. 論文標題 Social Entrepreneurship and Social Business Associated with Multiple Functions of Urban Agriculture in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asia-Pacific Journal of Regional Science	6. 最初と最後の頁 521-552
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s41685-020-00154-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木南莉莉, 古澤慎一, 木南章	4. 巻 50
2. 論文標題 農業の多面的機能とクリエイティブ・クラスに関する実証分析 - グローバル・シティ東京都と上海市を中心に -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域学研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木南莉莉, 古澤慎一, 木南章	4. 巻 72
2. 論文標題 日本における都市農業の多面的機能とソーシャル・ビジネス：新潟市を主な対象として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新潟大学農学部研究報告	6. 最初と最後の頁 35-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木南莉莉	4. 巻 49(1)
2. 論文標題 (書評)「山崎朗編著『地域産業のイノベーションシステムー集積と連携が生む都市の経済ー』学芸出版社、2019年」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域学研究	6. 最初と最後の頁 115-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古澤慎一, 木南莉莉, 木南章	4. 巻 49(2)
2. 論文標題 日本における都市の持続的発展とクリエイティブ・クラス：寛容性と多様性に着目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域学研究	6. 最初と最後の頁 231-252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木南章, 木南莉莉, 古澤慎一	4. 巻 72
2. 論文標題 農業経営の多角化における起業家精神とソーシャル・キャピタル：農産物加工事業と消費者への直接販売事業を対象として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新潟大学農学部研究報告	6. 最初と最後の頁 51-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kiminami Lily, Furuzawa Shinichi, Kiminami Akira	4. 巻 online first
2. 論文標題 Impacts of multi-functionality of urban agriculture on the creative classes in global mega city: focusing on Shanghai in China	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asia-Pacific Journal of Regional Science	6. 最初と最後の頁 online first
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s41685-019-00107-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Baldanov Andrey, Kiminami Lily, Furuzawa Shinichi	4. 巻 online first
2. 論文標題 Study on the relationships between rural and agricultural development and human resource development in Russian Federation since 2000s	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Letters in Spatial and Resource Sciences	6. 最初と最後の頁 online first
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12076-019-00228-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Furuzawa Shinichi, Kiminami Lily, Kiminami Akira	4. 巻 71
2. 論文標題 Cultural Diversity and Gender Inequality in Creative Classes: Case Study from Major Cities in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bulletin of the Faculty of Agriculture, Niigata University	6. 最初と最後の頁 17-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古澤慎一, 木南莉莉	4. 巻 採択決定
2. 論文標題 フードシステムの発展と生活協同組合の役割: イノベーションとコーポレート・ガバナンスの視点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域学研究	6. 最初と最後の頁 採択決定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 木南章, 木南莉莉, 古澤慎一	4. 巻 71
2. 論文標題 起業家精神と起業環境が開業率に与える影響: 都道府県データによる分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新潟大学農学部研究報告	6. 最初と最後の頁 9-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kiminami Lily, Kiminami Akira, Furuzawa Shinichi	4. 巻 掲載決定
2. 論文標題 Impacts of multi-functionality of urban agriculture on the CCs in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Asia-Pacific Journal of Regional Science	6. 最初と最後の頁 掲載決定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s41685-018-0076-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Furuzawa Shinichi, Kiminami Lily	4. 巻 1
2. 論文標題 Changes in the international specialization of food manufacturing industry in East Asia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Asia-Pacific Journal of Regional Science	6. 最初と最後の頁 359 ~ 378
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s41685-017-0035-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計24件(うち招待講演 5件/うち国際学会 13件)

1. 発表者名 Lily Kiminami
2. 発表標題 Long Distance and Neighborhood Relationship: Sustainable Development of Cities and Multi-functionality of Agriculture
3. 学会等名 The Regional Science Academy (TRSA)(The University of Lyon, France) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Lily Kiminami, Shinichi Furuzawa, Akira Kiminami
2. 発表標題 Impacts of Multi-functionality of Urban Agriculture on the Creative Classes in Japan: Focusing on Niigata City
3. 学会等名 The 59th ERSA Congress (The University of Lyon, France) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akira Kiminami, Lily Kiminami, Shinichi Furuzawa
2. 発表標題 Determinant Factors of On-farm Processing in Japanese Farm Business: Focusing on Regional Differences in Natural and Socioeconomic Conditions and Entrepreneurship
3. 学会等名 The 59th ERSA Congress (The University of Lyon, France) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinichi Furuzawa, Lily Kiminami, Akira Kiminami
2. 発表標題 Socio-Economic Factors Affecting the Innovativeness of Start-ups in Japan: Comparative Analysis between Social Enterprises and Commercial Enterprises
3. 学会等名 The 59th ERSA Congress (The University of Lyon, France) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Rana Sohel, Lily Kiminami, Shincih Furuzawa
2. 発表標題 Disaster Risk Management (DRM) in a Haor Area of Bangladesh: Focusing on the Household Level
3. 学会等名 日本地域学会第56回年次大会 (久留米大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木南莉莉, 古澤慎一, 木南章
2. 発表標題 中国における近年の食料消費行動の変化 米のブランドが価格形成に与える影響
3. 学会等名 日本地域学会第56回年次大会(久留米大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古澤慎一, 木南莉莉, 木南章
2. 発表標題 日本における社会的企業の革新性に関する分析: 新規開業企業を 対象として
3. 学会等名 日本地域学会第56回年次大会(久留米大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木南章, 木南莉莉, 古澤慎一
2. 発表標題 農業経営における起業家精神の規定要因に関する研究 - 農産物加工事業と消費者への直接販売事業に焦点を当てて -
3. 学会等名 日本地域学会第56回年次大会(久留米大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Lily Kiminami, Shinichi Furuzawa, Akira Kiminami
2. 発表標題 Creative Class, Multi-functionality of Urban Agriculture and Social Business
3. 学会等名 Regional Sustainable Development Forum 2019(Zhaoqing, PR. China) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akira Kiminami, Lily Kiminami, Shinichi Furuzawa
2. 発表標題 Determinant Factors of Diversification in Japanese Farm Business: Focusing on regional differences in internal and external conditions and entrepreneurship
3. 学会等名 Regional Sustainable Development Forum 2019(Zhaoqing, PR. China) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kiminami Lily, Furuzawa Shinichi, Kiminami Akira
2. 発表標題 Impacts of Multi-Functionality of Urban Agriculture on the Creative Classes in Global Mega Cities: Focusing on Shanghai Mega Region in China
3. 学会等名 The 12th World Congress of the RSAI (Goa, India) (Proceedings, ISBN 978-989-54216-0-2, pp.1149-1160) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Furuzawa Shinichi, Kiminami Lily, Kiminami Akira
2. 発表標題 Study on the Determinants of Creative Classes and Its impacts on Regional Economic Growth: Case study from Major Cities in Japan
3. 学会等名 The 12th World Congress of the RSAI (Goa, India) (Proceedings, ISBN 978-989-54216-0-2, pp.677-685) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kiminami Akira, Kiminami Lily, Furuzawa Shinichi
2. 発表標題 Impacts of Entrepreneurship and Social Capital on the Process of New Firm Formation in Japan
3. 学会等名 The 12th World Congress of the RSAI (Goa, India) (Proceedings, ISBN 978-989-54216-0-2, pp.1833-1839) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Baldanov Andrey, Kiminami Lily, Fuzuzawa Shinichi
2. 発表標題 Study on the Relationships between Rural and Agricultural Development and Human Resource Development in Russian Federation Since 2000s
3. 学会等名 The 12th World Congress of the RSAI (Goa, India) (Proceedings, ISBN 978-989-54216-0-2, pp.1349-1360) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木南莉莉, 古澤慎一, 木南章
2. 発表標題 グローバル都市における農業の多面的機能とクリエイティブ・クラス-東京都と上海市を中心に-
3. 学会等名 日本地域学会第55回年次大会 (北海学園大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古澤慎一, 木南莉莉, 木南章
2. 発表標題 日本における都市の持続的発展とクリエイティブ・クラス：寛容性に着目して
3. 学会等名 日本地域学会第55回年次大会 (北海学園大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木南章, 木南莉莉, 古澤慎一
2. 発表標題 日本における新規開業率の要因分析：企業環境と起業家精神を中心として
3. 学会等名 日本地域学会第55回年次大会 (北海学園大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Baldanov Andrey, Kiminami Lily, Furuzawa Shinichi
2. 発表標題 Regional Dimensions of Agricultural Development and Human Resource Development in Russia Since 2010
3. 学会等名 2019年度 日本農業経済学会大会（東京大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木南莉莉
2. 発表標題 地域振興とE P A
3. 学会等名 自由貿易の意義とEPAの役割～中小企業の海外販路開拓と地域振興のために（外務省主催）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Lily Kiminami
2. 発表標題 Which 2 or 3 regional scientists and their publication has been of greatest influence on my research career, and why?
3. 学会等名 Special Academic Sessions(SASs) of the 25th Pacific Conference of the RSAI（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akira Kiminami, Lily Kiminami
2. 発表標題 Critical Issues on the Creative Class and Policy for Regional Development: Case Study from Japan
3. 学会等名 The 25th Pacific Conference of the RSAI(May 17-20, 2017, Tainan, Taiwan)（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shinichi Furuzawa, Lily Kiminami
2. 発表標題 Consumer Cooperatives and Quality-Enhancing Innovation of Food in Japan
3. 学会等名 The 25th Pacific Conference of the RSAI (May 17-20, 2017, Tainan, Taiwan) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 古澤慎一, 木南莉莉
2. 発表標題 日本における生活協同組合に関する研究：コーポレート・ガバナンスの視点から
3. 学会等名 日本地域学会第54回年次大会 (立命館大学)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Andrey BALDANOV, Lily KIMINAMI, Shinichi FURUZAWA
2. 発表標題 Study on the Human Resource Management of Agro-food Industry in Russian Federation: Focusing on the Siberian Federal District
3. 学会等名 日本地域学会第54回年次大会 (立命館大学)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Baldanov, Andrey, Kiminami, Lily and Furuzawa, Shinichi	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 55
3. 書名 Agriculture and Rural Development in Russia Since the 2000s: Focusing on Human Capital. Springer Briefs in Economics	

〔産業財産権〕

〔その他〕

木南莉莉のホームページ  
<https://sites.google.com/site/lilykinamihpeng/home>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------